



## 新年度各自治会等の合同総会終了 事業計画や新役員も決定

自治会や農家組合、愛林会など各地区の主要団体の令和7年度総会が2月中に概ね終了し、新年度の事業計画等が決定しました。今年は、各団体とも役員改選の議題があり、新役員が選出されています。また、改選期を迎えた行政区長の推薦も決定。現在判明している新役員をここに紹介します。

【各地区の主な新役員等名簿】(敬称略)

地区名	自治会長	農家組合長	愛林会長	行政区長
大平(第14区)	加藤博幸	小野寺彰	千葉治	佐藤千宏
宝築(第15区)	吉田進	菊地勤郎	菊地勤郎	千葉彰
中日向(第16区)	藤野守☆	菊池敏幸	藤野正良	岩淵敏郎☆
三沢(第17区)	菊池敏明☆	菅野辰己	吉田正明	菅野博
天ヶ森(第18区)	千葉浩	小野寺秀明	千葉武	小野寺雅彦
町下(第19区)	及川和彦☆	金安信☆	佐藤正彦	千葉幸司
寺崎前(第20区)	千葉正行	金野常雄	小野寺豊	佐藤文橘
花貫(第21区)	村上達男☆	菅原正太郎	金野弘之☆	菅原精一☆

※ 令和7年3月1日現在把握分 ☆印は新任 (当協議会事務局調べ)

## 盛岡地方法務局出前講座「相続登記の義務化について」 R7.2/25

盛岡地方法務局の出前講座を活用した奥玉市民センターの住民講座が2月25日に開かれ、令和6年4月から開始された「相続登記の義務化」などについて参加者は理解を深めました。

この日は受講申し込みのあった28名が参加。「相続登記」をテーマに家族が亡くなった場合の土地・建物の相続や登記申請手続きなどについて、講師の高橋充さん(水沢支局長)による講話が行われ、参加者は専門的な内容に耳を傾けていました。

なかでも、「登記申請書の記載例」や「自筆証書遺言書の書き方のポイントや保管制度」など具体的な説明があったほか、終了後の質疑応答も活発で、「相続土地の国庫帰属制度」や「筆界未定地の相続」「義務化に伴う正当な理由」「家屋の滅失登記」「所有者多数の共有地の登記」なども分かりやすく説明されていました。



住民講座の参加者

講師の高橋充さん

## 千葉喜代一さん 歴史ある「国風盆栽展」で連続入選(東京都美術館2/13~16)

日本最古の歴史を有し、最もレベルと格調の高い盆栽展として知られる「国風盆栽展」で、千葉喜代一さん(奥玉深芦沢)の作品「一位(いちい)」が連続入選を果たしました。

第99回の同展(後期)は、2月13日から16日までの4日間、東京都美術館で開かれ、出展数は前期と後期合わせて300点以上。千葉さんは同盆栽展にこれまでに10回以上出展し、そのほとんどで入選しています。今回出展の「一位」について本人は、「あと2~3年後を目指し作っていた作品で、正直自信がなかった」というものの、見事連続入選を果たしました。

最近、中国や欧米、東南アジア勢の出展者も増加し、国内の愛好家でも中々入選が難しくなっているとのことですが、同展は来年100回記念を迎えることから、盆栽歴50年の千葉さんはすでに次の目標を見据えています。

なお、千葉さんの丹精込めて育てられた盆栽の数々は、あらたま作品展や新年交賀会のほか、今年1月の一関市立図書館記念式典や各種祝賀会などでも飾られ、会場の品格を高め、特別な空間を引き立てています。



入選した盆栽「一位」と国風盆栽展(東京都美術館)  
(写真提供は千葉喜代一さん)



市立図書館記念式典

奥玉地区新年交賀会

あらたま作品展

## 奥玉地元学研究会「奥玉田舎芝居」「本吉歌舞伎」の振り返り R7.2/18

奥玉地元学研究会(金安信会長)の2月例会では、「昔、奥玉芝居があった・・・」との話題提供から「奥玉田舎芝居」についての振り返りを行い、出席者で本吉歌舞伎上演のビデオ鑑賞が行われました。

この本吉歌舞伎は、奥玉の人達から指導を受けたと言いつゆのある歌舞伎で、その復元に取り組む当時の本吉町で、平成13年1月に開かれた時のビデオで、「白波五人男」弁天小僧役で、奥玉から小山静さん(現姓・高橋:奥玉市民センター)が出演している貴重な映像です。

例会では、藤野壽男さん等が中心となり「奥玉田舎芝居」の復元に取り組んだ平成10年当時を、実際に携わった村上光正元公民館副館長などの証言等で振り返りながら、奥玉にも上川原や町下を中心とした地域に江戸歌舞伎直入の地芝居があり、隆盛を極めていた歴史に思いを馳せていました。



「本吉歌舞伎」のビデオ鑑賞

## 奥玉パッチワーク学習会 クロス・ステッチの作品作りに挑戦 R7.2/15

奥玉パッチワーク学習会(千葉洋子代表)の今年の制作課題は、クロス・ステッチによる「コスモスの咲く風景」と「ふくろう」。定期的に市民センターで指導を頂いている講師の高橋順子先生(西和賀町)より、この日は材料を準備頂き、縫い方のコツなどを伝授してもらっていました。

「クロス・ステッチ」とは、糸を交差させながら刺していく刺しゅうの技法。「ふくろう」の型紙には、約2ミリの方眼が縦92個×横150個の計13,800個あり、これに18種類の糸で模様を刺しゅうしていく相当根気のいるもの。

会員11名は早速、試行錯誤しながら制作に取り組んでおり、一針一針に気持ちのこもった作品の完成が楽しみです。



作品の手本を観察

高橋順子先生を困む受講者

## 市老連千厩支部 お茶ばたきカルタ大会 中日向長生会が準優勝 R7.2/20

一関市老人クラブ連合会千厩支部主催の第27回お茶ばたきカルタ大会が2月20日、千厩老人福祉センターで行われ、町内から8チーム(男女各4人)がエントリーし、トーナメント式で勝敗を競いました。

奥玉地区からは、中日向長生会と寺花老人クラブが出場し、中日向長生会が見事準優勝となりました。優勝は、昨年に引き続き天神老友クラブ(小梨)、寺花老人クラブは善戦むなしく初戦敗退でした。

カルタの読み手には千厩赤十字奉仕団や声の広報のボランティア3名が交代で当り、運営面では参考となる部分もありました。

(写真は、準優勝の中日向長生会メンバー)



お茶ばたきカルタ大会  
一関市老人クラブ連合会千厩支部

## 大平地区 長年にわたり生活道路の除雪ボランティア活動 Wonderful!

奥玉大平地区には長年にわたり生活道路の除雪作業をボランティアで行っている方がいます。

その一人、藤田孝一さん(飛ヶ森)は、10年ほど前から勤務の合間を縫って、市の除雪基準に満たない時でも率先して自宅付近から江刺室根線までの約2キロ間を所有トラクターで除雪作業を行っており、吹き溜まりや凍結箇所は特に入念に行っています。また、熊谷光彦さん(上ノ山)も自宅周辺のカーブや日陰部分を中心に長年にわたり市道の除雪作業を行っており、両名とも「自分の通る道路なのでやって当たり前」と謙遜しますが、沿道の方々は「大変助かっている」と感謝を口にしています。

近くでそばカフェ「そば壱」を営む及川福壽さんは、「長年の活動は地元の誇りでもあり、外から来るお客さんからも感謝されている。本当に頭が下がる」と話していました。(写真は及川福壽さん提供)



除雪された道路とトラクターに乗る藤田孝一さん